



朝永振一郎記念 第4回「科学の芽」賞 応募状況他

附属学校教育局 教授 小林 汎

2009年度の第4回「科学の芽」賞には、昨年度に引き続き、1,000件を上回る1,158件（〔個人1,076件〕〔団体82件〕）の作品の応募がありました。2年続けて1,000件を超えることができ、第1回から順調に「科学の芽」が育っていると感じます。

応募があった1,158件の内訳は、小学生部門が596件（〔個人582件〕〔団体14件〕）、中学生部門が530件（〔個人479件〕〔団体51件〕）、高校生部門が32件（〔個人15件〕〔団体17件〕）です。今年は、北は北海道から南は沖縄まで、29都道府県からの応募があり、さらにフランクフルトとソウルの海外日本人学校の子どもたちからも送られてきています。

今年から名誉審査委員長に岩崎洋一前筑波大学長をお迎えして、審査を進めています。11月下旬に「受賞作品」の報道発表を行い、12月19日（土）には、筑波大学・大会館ホールにおいて、表彰式並びに発表会を開催します。ご興味のある方は是非、大会館ホールまで、お出かけください。

産業医の視点から見た教職員のメンタルヘルス

附属学校教育局 産業医 吉野 聡

私が産業医として経験した様々な職場と比較して、学校という現場における教職員のメンタルヘルスの特徴を考えてみたいと思います。まず、最も顕著なストレスが、人間関係の複雑さです。教職員同士の関係はもちろんのこと、生徒や父母との関係など、絶えず様々な立場で人間関係のストレスにさらされることになります。また、教職員に対する世間の視線を考えますと、学校を離れたとしても人の模範となるような行動を強いられるプレッシャーもあります。そのようなストレスを感じやすい状況にも関わらず、学校という場においては生徒への教育が最優先となるため、教職員の方々のメンタルヘルスにまで対応が行き届きにくいという問題点もあります。

しかし、教職員の心身が健康でなければ、決して良い教育はできません。ストレスにさらされやすい職種だからこそ、教職員の健康により一層配慮した学校づくりが求められているのかもしれない。

《編集後記》

今年は新型インフルエンザが全国的に猛威を振っています。学校現場にも大きな影響を与え、学級・学年閉鎖や休校の報道が相次いでいます。附属学校も例外ではありませんが、情報を収集・検討し、関係機関とも連絡を密にして、またご家庭の皆様のご協力もいただきながら、学習に極力支障が出ないよう慎重に対応しております。

さて、附属学校に課せられた使命の一つに、教育や研究など様々な分野において先導的・中心的役割を果たし、その成果を全国に向けて発信していくことが挙げられます。そこで、今号では「附属学校 新たなる旅立ち ～全国への発信～」と題して、皆様から原稿をお寄せいただきました。ありがとうございました。

また、今号から新企画「この指とまれ」が始まりました。これは、附属学校に通う生徒の皆さんに執筆していただくコーナーです。第1回の今回は附属坂戸高等学校で、同校演劇部と“しゅわっち”グループの皆さんが地域の福祉作業所のお祭りに参加し多くの方々と交流した際の、楽しく有意義な活動の様子を報告してくれました。他附属学校の皆さんの声も順次紹介していく予定ですので、どうぞご期待ください。（五味貴久子）

ポロニア
paulownia

vol. 16

発行日……平成21(2009)年10月31日
 発行者……附属学校教育局長 阿部生雄
 発行所……筑波大学附属学校教育局 広報誌
 ポロニア編集委員会
 〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1 電話 03-3942-6800
 編集委員長……江口勇治
 編集委員……西川公一・田中輝美・石川満佐育
 五味貴久子・根本文雄・藤田祐嗣
 デザイン……スピーチ・バルーン
 印刷……広研印刷 使用紙:U-Himax mm [日本製紙]



附属学校 新たなる旅立ち ～全国への発信～

ポロニア
paulownia



筑波大学附属学校教育局
http://www.gakko.tsukuba.ac.jp/

vol. 16